

小児急性骨髄性白血病に対し JPLSG (現 JCCG) AML-05 研究に参加されました患者さまおよびその代諾者の方々へ 2017年2月27日

研究代表者	宮崎大学医学部小児科学分野・助教	齋藤 祐介
共同研究者	宮崎大学医学部小児科学分野・准教授	盛武 浩
	宮崎大学医学部腫瘍生化学分野・教授	森下和広
	宮崎大学医学部小児科学分野・助教	澤 大介
	宮崎大学医学部腫瘍生化学分野大学院	末金 彰

JCCG AML 委員会

滋賀医科大学小児科・講師	多賀 崇
京都大学人間健康科学科・教授	足立 壮一
国立成育医療センター・医長	富澤大輔

研究責任者: 齋藤 祐介(宮崎大学医学部機能制御学講座腫瘍生化学分野)

これまでJCCG AML-05研究で、EVI1遺伝子が高発現している白血病細胞では急性骨髄性白血病(AML)の予後が悪くなることが明らかとなりました。EVI1は遺伝子の発現を調節する転写因子という分子の1つです。本研究ではEVI1が高発現することで発現が上昇する新規遺伝子を同定し、同定された新規遺伝子の予後との関連や治療標的の可能性を探索します。この研究により難治性AML治療法の進歩に役立つことが期待されます。

研究課題名: AML-05 臨床試験登録症例を対象とする小児急性骨髄性白血病における新規予後因子の解析

対象者: JPLSG(現 JCCG)が行う AML を対象疾患とした多施設共同臨床試験 (AML-05) に登録された患者さまのうち、MLL 遺伝子異常が見つかった 50 例について解析します。解析はすでに採取された検体から作製された試料を用いるため患者さまあるいはその代諾者さまへの新たな負担はございません。

方法: JCCGが行うAMLを対象疾患とした多施設共同臨床試験 (AML-05) に登録された患者さまのうち、これまでMLL遺伝子異常がありEVI1の発現が調べられた50例を対象に現在残っている検体試料を用いてEVI1により遺伝子発現が調節されている遺伝子(GPR56, Integrin A6, CALCRL, GLUT1, GLUT4, GLUT5)の発現をPCR法で解析します。EVI1高発現検体では予後が悪いことが明らかになっており、その他の候補遺伝子についても発現量と予後との関連を調べます。個人を特定可能な情報は解析には用いません。

個人情報の保護について: 研究内容はプライバシーの保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をおかけすることはありませんのでご安心ください。この調査の対象に該当するかどうかお知りになりたい場合は主治医にお尋ねください。研究に臨床データや試料を提供したくない場合は主治医にお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。

問合せなどの窓口

研究責任者: 宮崎大学医学部小児科学分野 齋藤祐介

E-mail: yusuke_saitoh@med.miyazaki-u.ac.jp